

## 早春の陽ざしほどの生甲斐

「一万円札を拾って来た生徒がいます。心当たりの方がいましたら、ご連絡ください。」

朝会で明るい声が響きます。拾って届けてくれる生徒の気持ち嬉しい。モノ、カネが万能の時代、それが今の荒廃した世の中を作り上げているのではないか。人はどこまで落ちていくのか。毎日、毎日、暗いニュースばかりで滅入っていた時にこの明るい話題。

みんな笑みがこぼれます。

掌にうける早春の陽ざしほどの生甲斐でも人は生きられる。

一万円札を拾って届けてくれる。たったこの事だけで、今日一日、幸せな気持ちになります。

平成十八年 十一月十七日

国府はがき通信

No21

## 一流のチーム

秋風を感じる十一月に入りますと、本校の先生方の週末は忙しくなります。新人戦が始まるからです。ソフト、野球の応援に行つて、駅伝、ハンド、バスケットを応援して、テニス、サッカーと一喜一憂する日が続きます。その中で、サッカーがルーテルを敗つて準決勝に駒を進めます。女子バスケット、ハンドの男女も勝ち進んでいます。

部活をするなら、どっぷりとつかつて欲しい。二十四時間、部活のことを考えて欲しい。そうすれば、どんなことをすれば良いのか、自然とわかってくるものです。食生活から挨拶、礼儀、勉強。一流のチームにはそれがあります。幸いな事に本校にはその一流のチームがいくつもあります。全部の部が一流になつて欲しい。そんな願いを込めて、今日も私もは応援に行くのです。

平成十八年 十一月十日

国府はがき通信

No20

## 泉心祭

津軽三味線の激しい音色が響く。国府高校の「泉心祭」の幕開けです。ベートーベンの悲愴第三楽章、ピアノ演奏、合唱コンクール、漫才、ロックバンド、ヒップホップダンス、ブレイクダンス、演劇、不思議なエネルギーに満ちあふれたステージ部門。巨大似顔絵、養護学校の生徒さんとの交流会、やさしさと芸術性の高い展示部門。お茶飲み放題の肉まん、いきなり団子、タピオカ、アイスクリーム、焼きそば、食欲をそそる匂いが立ち込めるマーケット部門。多くの男子生徒が神妙に座っていた肥後古流の茶道部。中国雑技団の「芸」におしめない拍手を送った芸術鑑賞。

国府高校の「泉心祭」には生徒の意外な才能が満ちあふれていた。ここには確かに青春の輝きがあった。

平成十八年 十一月二日

国府はがき通信

No19

キンモクセイの香の中を、冬服に衣更えした生徒たちが登校して来ます。秋です。嬉しい事が三つありました。

九月末、文部科学省後援、実用数学技能検定「数検」グランプリ、奨励賞を本校がいただきました。これは日頃の数学教育の努力が認められたものです。二つ目は第六十一回、国体に本校から九名も出場しました。バスケット四名、陸上三名、サッカー一名、そして天川道代先生。先生は成年女子バスケットボール選手として出場し、見事準優勝に輝きました。また成年男子ハンドボールコーチに鎌田雅彦先生も出場されました。三つ目は境祥子先生、日本陸連から指導者功労者表彰「平沼亮三章」を受賞されました。これは高校生の指導者としての素晴らしい功績が全国で認められたものです。素晴らしい指導者、素晴らしい生徒、秋風の中で国府高校は更に躍進します。

平成十八年 十月二十七日

国府はがき通信

No18

私は今回教育実習の為、母校である国府高校に帰ってきました。私が卒業して四年、母校はまた大きく成長を遂げていました。新しく野球部が創られ、早朝、全校で書写をする。新たな挑戦です。「ここにちは」という大きな声で挨拶する部活動生も健在でした。教育実習で私が一番感じたことは、先生方の努力、そして生徒への愛情の大きさ、温かさでした。生徒でいた時は知る事が出来ない事でした。この三週間は、生徒たちの屈託のない笑顔に励まされ、自身を見つめ直すことが出来た貴重な時間でした。そして忘れつつあった真つ直ぐに前を見る心を取り戻すことが出来ました。私自身の原点は国府高校。そのことを心から感じ、感謝の気持ちで一杯です。立派な教師を目指して頑張ります。

平成十八年 十月二十日

大阪体育大学四年 上田 渉

大学選手権ハンマー投げ優勝、全日本三位

国府はがき通信

No17

## 霧の道

「お前の顔を見ようと思って、あそこに立っていたよ」。

走り終わった孫を見上げながら、おばあちゃんが話しかける。

霧の中の飯田高原、第十一回九州選抜高校駅伝競走大会。冷たい風に各校の旗がはためいている。

本校はアンカーが追い上げて三位、本番へ向けて、確かな手応えを感じた。帰り道、走ったコースの塵を拾っている本校生徒を見た。

「頑張ったね」を声をかけると、「ありがとうございます」と、さわやかな声が返ってきた。「高校生っていいなあー」と、そう思いながら霧の道を帰ってきた。

平成十八年 十月十三日

国府はがき通信

No16

「ただ今帰りました」

U 16 日本代表として韓国に遠征していた女子ハンドボール部の松木史さん（一年、本渡中出身）が帰ってきました。一段と逞しくなつて、大きな目を真つ直ぐに向けて、国際試合の事を話してくれました。ハンドボール部の先輩にはドーハで行われるアジア大会に、日本代表として出場する二名の方もおられます。水野恵子さん（H十年卒）、勝田祥子さん（H九年卒）

このハンドボール部や、バスケットボール部は男女とも全国大会に出場します。私どもの夢は、男子も女子も日本代表として多くの生徒が出場してくれることです。

平成十八年 十月六日

国府はがき通信

No15

## セミナーハウス

本校には百人はゆつくり宿泊できるセミナーハウスがある。体育部の合宿、ホームルームや部活動、学級指導などで活発に活用している。大小の研修室があり、和室もある。視聴覚設備も完備していて、講演会などには最適である。

ここの食堂は昼食時になると満室になる。生徒に人気があるのは、どんぶり物とか。三百五十円の日替り定食をいつも食べに来る先生もいる。

何よりうれしいのは、ここで働いている方々が、本校の野球部の試合にいつも応援に来ていただく事である。

平成十八年 九月二十九日

国府はがき通信

No14

10対0、五回コールド。本校野球部が公式戦初勝利をしました。男子が入学して十二年目、野球部が創設されて六ヶ月。熊本国府高校に、また新しい歴史が刻み込まれました。

今年の夏はハンカチ王子などの出現によって、高校野球が人々の耳目を集めました。そこに私どもは失われつつある日本人の良さを見出したような気がしました。品格、清潔、闘志、真面目、礼儀、しかし、良く見ると私どももの周りにも、ひたむきに普通の高校生活を送っている生徒は沢山いるのです。ともすれば問題行動を起こす生徒ばかりに視点がいつてしまいがちですが、さわやかな高校生は多いのです。今日もまた、何人ものハンカチ王子に出会いました。

平成十八年 九月二十二日

国府はがき通信

No13

男子と間違えそうな短髪の女子バスケット部員がコートを走りまわる。今年の夏の休みはお盆の二日だけ。練習が終ると三年生が率先して後片付けを始める。部の決まりは自分達で作り守っている。「二十四時間バスケットのことだけ考えよう。そのためには、勉強は勿論の事、食べ物から健康面まで気をつけよう。挨拶の仕方から、電話の応対まで細やかな気配りをしよう。」青春のすべてをかけてバスケットに情熱を燃やしている姿は実にさわやかだ。本校にはその他、全国大会に出場するチームがいくつかある。それぞれの部がそれぞれの特色を出して練習している。共通するのはピアスもなければ、化粧もない。あるのは若者の汗で輝く素顔の美しさである。

平成十八年 九月十五日

国府はがき通信

No12

## 新たな展開

本校は男女共学になって十一年目を迎えています。今では男子学生は六割を占めて、卒業生も確かな足跡を残しています。

セレッソ大阪の藤本康太君、彼は北京オリンピックのサッカー候補選手。記憶に残っているところでは、亜細亜大学の岡田直寛君、箱根駅伝で優勝のテープを切りました。六月に教育実習に来た七名のうち六名が男子学生。野球も発足し元気の良い挨拶が飛び交います。本校は女子校だった時の気配りの細やかさ、家庭的なあたたかさを大切にしながら、新たな展開を目指します。

平成十八年 九月八日

国府はがき通信

No11

## 宝石を磨く2学期

2学期が始まりました。生徒達がそれぞれに自分の宝石を磨く2学期です。その宝石の光が満ちあふれる熊本国府高校を目指します。

### 2学期の主な行事

九月一日（金）始業式

十月五日（木）体育大会（パークドーム）

十月二十六日（木）二十七日（金）泉心祭

十一月十一日（土）学校説明会（中学生対象）

十二月十三日（水）～十七日（日）2年修学旅行

十二月二十二日（火）終業式

平成十八年 九月一日

国府はがき通信

No10

## 夏の終り

汗でシャツに塩が吹き出ている。

顔を覆って泣く生徒に声をかけてやることも出来ない。

「インターハイに出たのだから、良く頑張ったよ」と言っただけだが、そんな言葉は慰めにもならない。泣くがいい。君達はそれだけの努力をしたのだから。思い切り泣いた後は、さあーっと瞳をあげて、真直ぐに次の道を進んで欲しい。夏が終わると生徒はそれぞれ道を歩み始める。進学指導室、進路指導室には生徒がいっぱいになる。かけがえのない三年間だから、私どもも精一杯の手助けをしたい。

私たちに夏の終りはない。あるのはいつも次の始まりである。

平成十八年 八月二十五日

国府はがき通信

No 9

## 父に送る短歌

先日、職員健康診断が行われました。診察を待っている間に、本を読んでいる先生がいます。誰も知らないのですが、この先生は遠く離れて暮らしている九十六才になるお父様に、毎日、短歌を送っておられるのです。短歌はがき通信です。

「近頃、歌をほめられるようになりました。」ちよつと恥ずかしそうに話されました。

毎日、毎日、送られてくる短歌、それに毛筆で返事を書く九十六才の父。じめじめとした梅雨の時に、そこだけ涼風が通り抜けている感じがしました。

平成十八年 八月十八日

国府はがき通信

No 8

本校で二千年の太古から蘇った「大賀ハス」と西山中でアンネフランクが生き続けたという願いをこめて育てていた「アンネのバラ」。この花の姉妹校締結が七月二十三日行なわれました。この花には、時と国は違っても十五才の可憐な少女がかかわっています。

ナチスに虐殺されたアンネフランクがオランダの隠れ家で育てていたバラ、その時アンネフランクは十五才。寒風にさらされ発掘工事は打ち切りと決められたその日の夕闇迫る五時十分、一粒の黒い蓮の実を発見したのが、十五才の少女、西川真理子さん。

二つの花は、世界の人々に感動を与えて、永久に語り継がれています。命の大切さが失われている現在、二つの花の交流によって、命の尊厳さを私どもは訴え続けたいと思っています。

平成十八年 八月四日

国府はがき通信

No 7

「おはようございます。」早朝から進学指導室に生徒が来ます。添削指導を受けるためです。昼休み、次から次へと生徒がやって来ます。「看護師になりたいのですが資料を見せてください。」「良く来たね。君に逢いたかったとよ。」と冗談を言いながら久保先生が資料を出しています。就職指導室にも実に多くの生徒が来ます。熊本国府高校の特色は、卒業生、在学生が多いということです。人的資源が豊富だということ。このことは誠に多くの出口が用意出来るということです。進学では九大の工学部にB判定が出ている生徒もいます。中には、まだ、どう進んで良いかわからない生徒もいます。それぞれの生徒にそれぞれの道が用意出来る学校、それが熊本国府高校です。

平成十八年 七月二十八日

国府はがき通信

No 6

本校で今年もまた、千年前の古代から蘇った「大賀ハス」が、薄ピンク色の花を咲かせています。実に気品のある楚々とした花です。

国府高校に世界最古の「大賀ハス」が咲くようになったのは一九九五年からです。その当時の木下校長先生（現理事長）は大賀ハスの実の発掘から、開花に至るまでの夢とロマンに大変感激なされました。これを生徒達への格好な教材にしようと考えられ、一年の準備期間を経て本校で本格的に取り組みました。その後、「大賀ハス」は毎年、見事な花を咲かせています。発見者、大賀一郎博士の限らない探求心と、不屈の実践力。そしてこれを支えた関係者の献身的な努力。その夢とロマンがこの国府高校で実ったのです。本校はこの花を生徒への生きた教材として大切に育てたいと思っています。

平成十八年 七月十八日

国府はがき通信

No 5

## 心なごむ高校に

職員トイレに行きますと、熊本国府高校のやさしさを感じます。

洗面所にはいつも可愛い花が飾られています。

被服部制作のトイレットペーパー入れも、心なごみます。

人が気付かない所に、そつとやさしさが宿るそんな国府高校です。

一つ一つの窓に花壇があります。季節季節の花が風に揺れています。

厳しい時代です。生徒がどんどん変わっていきます。保護者の方

の考え方も変わります。

しかし、どんな時でもどこかに心なごむ所が欲しいのです。

熊本国府高校はいつもそれを心がけています。

平成十八年 七月十一日

国府はがき通信

No 4

早朝、教育実習生がトイレの掃除をしています。登校して来た生徒が次から次へと手伝います。何を言わなくても、教師と生徒の交流が始まります。

本校には今、七名の教育実習が来ています。本校の卒業生です。母校への想いは強いものがあります。私どもも厳しくあたたく指導したい。母校だからという甘えはさせない。しかし、母校だからすべてをさらけ出して育てたい。教師は素晴らしい仕事だと教えたい。私ども、幾つもの、季節を通り過ぎながら、時として立ち止まる事があります。時として、私どもの教育はこれで良いのだろうかと疑問を持つ事があります。繰り返し繰り返し指導しても生徒に伝わらない虚しさを感じることがあります。けれど信じたい。生徒の無限大の可能性を。人が人として生きることの素晴らしさを。

平成十八年七月四日

国府はがき通信

No 3

農業公園、カントリーパークの前に、広大な野球場が広がります。

五月にオーブンした国府高校の野球場です。藤崎台球場とほぼ同じ広さです。そこで今、六十名の球児が白球を追っています。

六月からさっそく練習試合が始まりました。全員一年生、せっかく点を取っても、すぐに取り返されません。全員に経験を積ませるためにメンバーチェンジが行われているからです。この中からレギュラーが決まり、夏の大会へと出場することでしょう。応援に、もう地元の方々が来ています。国府高校とは関係のない方です。

「よう挨拶するもんな、可愛いかですばい」とご夫婦で目を細めて見ておられる方もいらっしやいます。地域の方々から愛される野球部、学園の中心になっていく野球部、「野球人の前にちゃんとした高校生になれ」これが監督の指導方針です。

平成十八年六月二十七日

国府はがき通信

No 2

光の一粒一粒がしつかり膨らんで、日毎に季節が濃密になる頃になりました。早朝、緑の中を若者が走っています。若者の挨拶が飛び交います。

本校は創立以来六十五年、多くの人材を育ててまいりました。卒業生も約三万五千人を数え、親子三代にわたって学ぶ生徒も出ています。おかげさまで、高校総体、高校総文と生徒の活躍はめざましいものがあります。そして、いよいよ野球部が夏の高校野球予選から出場します。このたび、このような本校生徒の高校生活をいろいろな角度からとらえ、それを定期的にお伝えする国府高校通信を発行することになりました。ご笑覧賜り、ご指導ご助言いただければこれ以上の喜びはございません。

平成十八年 六月吉日

国府はがき通信

No 1